

会報 しんせき

第 37 号

笑顔いっぱい 元気いっぱい 夢いっぱい

新関コミュニティ協議会：新潟市秋葉区下新364-1 TEL0250-47-4640

(新関コミュニティ協議会の活動は、新潟市の助成を受けています。)

平成26年6月27日

発行責任者

新関コミュニティ協議会
会長 瀬戸範彦

6月16日(月)13:02 地震発生(訓練)



自主防災訓練行われる

1時02分地震発生(訓練)

- 新関自主防災組織は災害対策本部設置⇒被害の状況収集⇒子供たちの安全確保のため、自治会に集合要請
- 小学校児童、保育園児グラウンドに避難
- 保護者に引き渡すまでの訓練実施⇒保護者は訓練の過程を見学
- その後、避難所(体育館)設営訓練と検証
- 災害用簡易ストーブ作成と炊き出し訓練
- 研修会
- 段ボールを使っでの避難所設営と宿泊体験
2日がかりの訓練でした。(詳細は次ページより)

今から50年前の6月16日午後1時2分、新潟地震が発生しました。当時生まれた人は現在50歳。もう半世紀も前のことですが、この地震を体験した年代は、昨日のことのように覚えています。石油タンクからの黒煙、ドミノのように崩れた昭和大桥、傾いたビル、不気味な割れ目の道路、液状化……。必死で逃げた記憶がよみがえります。

新潟市では、地震発生時刻に合わせ全市一斉に防災訓練が行われました。新関コミュニティもいつ襲ってくるかわからない災害に備え、小学校や保育園、自治会と連携した防災訓練を実施しました。

今回の防災訓練実施に当たり、秋葉区地域課・新津地区公民館・秋葉区社会福祉協議会の皆様から格段のご配慮をいただきました。感謝申し上げます。



児童、園児、防災関係者グラウンドに集合





◆災害の怖さ、日頃の備えなどについて話を聞く園児や児童たち



◆避難所となる体育館を避難所運営マニュアルに基づいて測定。広さや必要なエリア等を確認し、いかに迅速に設営できるかを検証。



◆災害時に役立つ簡易ストーブ（通称ロケットストーブ）の作成と燃焼実験を兼ねた炊き出し訓練
少ない燃料で火力抜群



◆即席とは思えないカレーライスと豚汁が出来上がり、「おいしい、おいしい」の連発



◆公民館の伊藤さん、狩谷さんの講話（日頃の訓練の積み重ねの大切さ、備えについて研修）



◆段ボールを使っての避難所設営訓練と宿泊体験
背中が痛い、枕が欲しい、寝袋は便利、常備薬を忘れた、仕切りは有効、思ったほど寒くはなかった、実際の場合には本当に眠れるのか（不安、家族の安否、寒さ、暑さ、足音、雑音、空腹、子供の泣き声、ペットの泣き声・・・）



新関地区 防災の日



6月22日

昨年度より毎年6月の第4日曜日を新関地区の防災の日と定め、防災意識の高揚に努めることにしました。

地元秋葉方面隊第9分団、第10分団の消防団の皆さんから格段のご配慮をいただき、新関コミセンの青パトと一緒に新関地域を回っていただきました。

昨年度全家庭に配布した「防災緊急情報キット」の点検、書き換え、冷蔵庫への保存を呼び掛けるなど、一層の防災に対する備えや意識の向上をお願いしました。

六郷自治会では、今年もこの「防災の日」に合わせ防災訓練を実施しました。



防災部長 間順一さんの体験談

1964年6月16日新関中学校2年生(13歳)であった。

体育館で遊んで教室に移動直前、窓ガラスがガチャガチャという音とともに揺れ始めた。大変だ。本能的に生徒玄関から外へ。ところがゴーという地鳴り。地表は左右に揺れ立ってられない。四つん這いで外に脱出。左後方に見えた校舎は、地面の陥没のため傾いていた。田んぼも大きくうねっているのが見えた。幅跳び用の砂場からは1.5メートルもの水が噴き出している光景を見た。グラウンドも波打ち地割れ。揺れがおさまった時は田んぼも隆起した部分がはっきりと見て取れた。

今回の防災訓練に当たり、50年前のことを鮮明に思い出した。お互いに語り継いで防災意識の向上に役立てたいものである。

第16回新関地区ゴルフ親睦会 開催される

総合優勝 比金良一

年代別優勝者

- 20代 渡辺達春
- 30代 比金武士
- 40代 横山紀康
- 50代 羽田 彰
- 60代 比金良一
- 70代 地濃一精

(敬称略)



新関コミ協杯を授与される比金さん(右)

新関地域のゴルフ大会が今年も笹神五頭ゴルフ倶楽部で開催されました。比金良一さんが総合優勝。年代別の優勝者は表のとおりです。年々参加者も増え、有意義な大会となっています。羽下や四ヶ村地域からの参加者もあり非常に喜ばしいことだと思います。